

(平成16年2月時点)

地域水田農業ビジョン策定に係る取組事例

市町村名 新潟県三島郡越路町

☆新潟県のほぼ中央部、越後平野の南西端に位置し、町の東部を信濃川、中央部を渋海川が貫流、この二つの川にはさまれた三角州を中心に発達した町です。

☆環境保全型土づくり事業（堆肥散布）を全町レベルで実施するとともに、「土壌診断マップ」作成による高付加価値型農業を目指しています。



取組のポイント

☆事務局フレームを推進協議会の検討を経て、地区営農委員会、集落協議会に説明し、集落の意見を集約し、それを反映したビジョンづくりを推進

☆ビジョンの策定過程においては、有識者を助言者として検討を進めるとともに、推進協議会に生産者、実需者、消費者代表を加え、より広く意見を取り入れる体制を構築

☆県が推進する「地域農業システムづくり運動」と一体となった取組を実施

☆作物としては、高付加価値米・高品質米の生産を中心とし、本作としての水田麦・大豆のブランド化を推進

取組のキーワード

★★集落の意見等を集約・反映したビジョンづくり★★



協議会設立総会（平成15年11月26日）

各集落ごとに設置された集落協議会（12/5）

取組内容

- 15年10月から開催したビジョンのフレーム策定事務局会議(年内7回開催)には、有識者を助言者に加えて検討、策定を実施。
- 広く意見を取り入れる観点から、生産者、実需者、消費者代表も加えた構成での新たな協議会を11月に設置。素案の検討・決定のため、これまで2回開催。
- 地区営農委員会、集落協議会、集落座談会等からの意見集約(説明会)を都合2回開催(第1回目:12月中旬まで、第2回目:2月末日まで)。
- ビジョンは集落等からの意見集約(12月終了)を踏まえた素案を取りまとめ(12月下旬)、16年1月開催の協議会での検討を経て、再度集落等に説明(意見・要望集約)。3月の協議会で最終取りまとめ(決定)を行って集落等へ周知する予定。
- 作物生産としては、高付加価値型、高品質型の稲作生産を中心とし、本作としての水田麦・大豆のブランド化を推進。
- 担い手については、地域営農マスタープランでの目標(数、者)をビジョンでの当面の目標とする(リスト化済み)。
(認定農業者、生産法人・組織、新規就農者)
基本原則の到達者に加え、知事特認の適用者へ集落として自他共に認める範囲で農家組合長からの推挙で誘導を図る。

地域からのメッセージ

- ・越路町のあちこちの集落に生息する“ほたる”は6月から7月にかけて神秘的な光を放ってたくさん飛び交い、その光景は目を見はるファンタジックな光の乱舞を感じさせます。
また、冬には越後独特の「ぼた雪」が降り、この「ぼた雪」がライトに照らされた時“ほたる”の乱舞に似ていることから、ぼた雪とほたるをかけあわせた“雪ぼたる”という言葉が生まれ、「雪ぼたる舞う里～越路～」としてイメージづけられました。
- “雪ぼたる”の“雪”は「旨みあふれて白く輝く越路米」をイメージし、“雪ぼたる”の“ほたる”は、ほたるがたくさん生息できる越路町の清らかな水と空気に育まれた「おいしい安全健康米」をイメージしながら「おいしいお米の産地」をアピールするものであります。

策定スケジュール

- 15年10月 水田農業ビジョン策定事務局会議（第1、2回）
事務レベルでの現状把握、産地づくり対策の使途と条件（案）作成
JA戦略プラン（案）取り込み
- 11月 水田農業ビジョン策定事務局会議（第4、5回）
水田農業推進協議会（設立総会）打合わせ
交付金の活用方法の提示、ビジョン策定スケジュール提示
- 12月 東部・西部地区営農委員会
地区営農プラン実践活動、水田農業ビジョンについて
水田農業ビジョン策定事務局会議（第6、7回）
集落協議会、集落座談会打合せ
集落協議会（集落営農委員会）
担い手の明確化、産地づくり対策等の意見要望聴取
地域農業システムづくり実践活動
集落座談会（集落農家等常会など）
担い手の明確化、産地づくり対策等の意見要望聴取
集落説明会の総括、ビジョン素案の取りまとめ
- 1月 水田農業推進協議会
平成16年生産調整の方針決定
産地づくり対策の決定、数量配分
- 2月 水田農業ビジョン策定事務局会議（第8回）
集落協議会、集落座談会打合せ
産地づくり対策、生産調整の説明
地域農業システムづくり実践活動
- 3月 **ビジョン最終取りまとめ（決定）**
集落座談会、農家へ説明（周知）

推進体制（概略）

越路町水田農業ビジョン策定推進体制

